



国民の森林・国有林

公益重視の管理経営と林業の成長産業化の実現に向けて

～平成31年度重点取組事項の記者発表を行う～



記者発表にあたり挨拶を行う原田局長

4月18日九州森林管理局では、「公益重視の管理経営と林業の成長産業化の実現に向けて」と題し、平成31年度の重点取組事項について記者発表を行いました。

記者発表では、冒頭、原田隆行局長より「本年は、森林経営管理制度と森林環境譲与税の譲与が始まり、森林・林業は新しく画期的な年を迎える。国有林としても新しい仕組みが軌道に乗っていくよう取り組んでいく」旨の挨拶があり、その後、勝沼太志企画調整課長から「九州の森林・林業の主な情勢」について説明があり、続いて、久保芳文森林整備部長、井口真輝計画保全部長から各事項の具体的な取組内容について説明を行いました。

説明後の質疑応答では、熊本

地震による国有林の被災地における復旧状況、マンパワーが足りない市町村への人的支援、花粉症対策、シカ捕獲の状況等について質問があり、担当課長が回答し、取り組みに対する理解を深めて頂き、重点取組事項の記者発表を終了しました。

なお、九州森林管理局の平成31年度重点取組事項は次の7項目です。

① 確実な再造林の実施に向けた低コスト造林技術の確立

○各地で伐採面積が増大する中森林の多面的機能を持続的に発揮させるため、確実な再造林に向けて、国有林のスケールメリットを活かし、先駆的手法を積極的に導入し、低コスト造林技術を確立して、民有林へ普及する。
○特に、成長が早い苗木（特定母樹）の中苗を使うことによりシカ被害の防止と下刈ゼロを目指す。

② 木材の安定供給等に向けた担い手の育成

○森林の多面的機能の持続的発揮、多様で健全な森林づくりに向けて、計画的な森林整備を推進。生産した国有林材については、国産材の需要拡大や加工流

③ 深刻化するシカ被害への対応

○シカの増加、生息域の拡大により森林の被害が深刻化。
○被害が甚大な地域においてモニタリング調査を行うつつ、請負等によるシカ捕獲やシカ被害対策協定に基づく取組等を推進するとともに、新たにICTを活用したシカ捕獲の試行的導入を図る。

④ 森林経営管理制度の導入を踏まえた民有林行政の支援

○平成31年度から民有林において森林経営管理制度が導入され、森林環境譲与税の譲与が開始される。
○森林経営監視制度が円滑に機能するよう、森林総合管理士等による市町村の森林・林業行政等に対する技術的な支援に積極的に取り組む。

(次ページへ続く)



説明を受ける報道各社

⑤優れた自然環境を有する森林の保全

○特に優れた自然環境を有する地域については保護林に設定し、森林生態系の保全、希少な野生生物の保護を図ることとし、モニタリング調査等を通じた順応的管理に取り組む。

○世界自然遺産への登録を目指している「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」については、地元関係者と連携して、森林生態系保護地域等の適切な保護・管理を実施。

⑥森林景観を活かした観光資源の創出

○優れた自然環境を有し、森林

浴や自然観察等に適した国有林をレクリエーションの森として設定し、国民に保健休養の場として提供。

○特に魅力的な自然環境を有する等、観光資源としての活用の促進が期待される箇所については、「日本美しの森お薦め国有林」として、インバウンド需要の取り込みも目指して、環境整備や情報発信等を実施。

⑦山地災害からの復旧・復興に向けた取組

○近年、地震・集中豪雨等により山地災害が多発しており、復旧・復興に向け全力で取り組んでいるところ。併せて、荒廃山地の整備や保安林の水土保全機能の強化等により、地域の安全・安心を確保するための事前防災・減災対策を推進する。

○また、熊本県・福岡県からの要請により実施している民有林直轄治山事業に積極的に取り組む。

※平成31年度重点取組事項は、九州森林管理局HPのキーワード「九州森林管理局の重点取組事項」からご覧になれます。
(担当：企画調整課)

治山・林道コンクール表彰式を行う ◆優良工事施工業者・技術者・監督員を表彰◆

平成30年度治山・林道工事コンクールの表彰式を4月10日、局長室において行いました。

このコンクールは平成29年度に施工した工事で、事業効果の発現が顕著なものについて、実施要領に基づく取り組みテーマ（コスト削減・技術提案・環境配慮）に合致した工事の中から優良工事が選定され、工事内容が良好で他の模範に当たると判断された、治山工事部門3社、林道工事部門3社に対して局長表彰を行いました。

また、局長表彰に併せて当局より林野庁へ推薦した2社の工事が、林野庁長官賞（治山工事1社・林道工事1社）を受賞されたことから、屋久杉の額縁を贈呈し、当該工事の担当技術者並びに発注者の監督職員に対し、局長表彰を行いました。

◆林野庁長官賞
○梅野金立山治山工事
『テーマ：環境配慮』
《佐賀森林管理署発注》
株式会社中野建設
代表取締役 中野武志



長官賞・局長賞を受賞された方々と記念撮影

○合瀬芋笠101林道新設工事
『テーマ：コスト削減』
《大分西部森林管理署発注》
清川産業株式会社
代表取締役 江藤龍治

◆九州森林管理局長賞

【工事の部】

○安中温泉岳治山工事

『テーマ：技術提案』

《長崎森林管理署発注》

株式会社小場組

代表取締役 小場政昭

○桜島地区治山工事（松浦川本

流）

『テーマ：技術提案』

《鹿児島森林管理署発注》

株式会社島津建設

代表取締役 東 富美男

○桜島地区治山工事（あみだ川

第1支流）

『テーマ：技術提案』

《鹿児島森林管理署発注》

株式会社森山（清）組

代表取締役 森山豊治

○小川原214林道新設工事

『テーマ：コスト縮減』

《長崎森林管理署発注》

栄進工業株式会社

代表取締役 田口郁雄

○板子林道29支線新設工事

『テーマ：技術提案』

《西都児湯森林管理署発注》

株式会社仁科産業

代表取締役社長 仁科聡一郎

○東尾鹿倉67林道新設工事

『テーマ：コスト縮減』

《北薩森林管理署発注》

薩摩建設株式会社

代表取締役 山本求道

【技術者の部】

○梅野金立山治山工事

現場代理人 山田浩嗣

主任技術者 古賀了

（株式会社中野建設）

監督職員 峯 良彦 佐賀署

（現宮崎北部署）

○合瀬芋笠101林道新設工事

主任技術者 伊藤隆広

（清川産業株式会社）

監督職員 穴井隆文 大分西

（担当II治山課）

緑の募金贈呈式

（一財）熊本林業土木協会は4月11日に熊本市中央区のKKRホテル熊本で、九州国有林採石協会は4月22日、九州森林管理局局長室で、緑の募金贈呈式が



熊本林業土木協会長より贈呈



九州国有林採石協会長より贈呈

行われました。

九州森林管理局では、今年も緑の募金全国一斉強調月間として、「みどりの月間」（4月15日～5月14日）に募金活動を展開しています。

集まりました募金は、国土緑化推進機構と熊本市地域みどりの推進協議会をおし、日本全国の森林整備や緑化推進事業に活用されております。

なお、「みどりの月間」期間中は、監物台樹木園におきましても、募金箱を設置しています。（担当II技術普及課）

森林保護員による保全活動（前期）がスタート

【大分森林管理署・大分西部森林管理署】平成31年4月17日、早春の芽吹が始まったばかりの

標高1000mの大分県九重町の長者原において、平成31年度前期（4月17日～7月31日）森林保護員による保全活動の出発式を行いました。

はじめに、坂本和隆大分森林管理署長から6名、益田健太大分西部森林管理署長から4名の森林保護員に辞令が交付され、登山マナーの啓発、標識、登山道施設の状況把握と簡易な補修など保全活動がスタートしました。森林保護員は、7月末までの約3か月間（土・日・祝日）、久住山や大船山などの標高1700mを超えるくじゅう山地域の国有林を対象として保全活動を実施することとなります。

続いて、両森林管理署を代表して、大分森林管理署長から「森林の持つ水資源の涵養等、公益的な機能の発揮に向け取組を進めているところですが、皆さんの活動はその一環となる森林環境保全の重要な取り組みです。くじゅう連山は、1700m級の山々が連なり希少な高山植物を育む貴重な地域です。皆さんの活動で、国有林を利用する方々に自然の素晴らしさを伝えてください」と挨拶を述べました。

この日、任命を受けた森林保護員の皆さんは出発式を終え、

早速、春の登山シーズンを待ちかねてくじゅう地域を訪れた登山者にチラシを配布し、登山マナーアップの協力を呼びかけました。

また、活動途中の木道で出会った、関東からくじゅうに来訪された方は、「くじゅうの自然環境は素晴らしいですね」と語られる等、この日は天候にも恵まれた青空の下、そびえ立つくじゅう連山の自然を満喫されていました。

これから、くじゅう連山には多くの登山者が訪れます。また、5月下旬にはミヤマキリシマが開花し、くじゅうの山々がピンク色に染まります。この大自然を満喫していただくために、この保全活動を充実させ、一人一人が満足いただけるよう取り組みます。



パトロールに出発するグリーンサポートスタッフ

新任挨拶 どうぞよろしく

平成31年4月1日付の異動により、新しいポストに就かれた、総務企画部長・森林整備部長・3名の課長・8名の森林管理署長をご紹介します。

総務企画部長



秋岡 陽一郎

あきおか よういちろう

年齢 58歳
出身地 熊本県
前職 関東森林管理局下越森林管理署長

抱負 久しぶりの九州森林管理局勤務です。林業の成長産業化の実現や森林経営管理制度の定着に向けて、国有林（九州森林管理局）の組織力・技術力・資源を活用することが求められています。これらを進めていくための基本として、職員の健康や安全などが重要と考えています。健康保持や安全確保についてしっかりと取り組んでいきますので、よろしくお願います。

森林整備部長



久保 芳文

くぼ よしふみ

年齢 56歳
出身地 鹿児島県
前職 中部森林管理局南信濃森林管理署長

抱負 26年ぶりの九州局勤務です。車で走っていると普通に伐採箇所が目に入ってきて林業が活気を呈している雰囲気を感じられます。こうした中、国有林に期待される役割は益々大きくなっていくとともに、民有林との連携・支援の一層の推進も求められています。この期待に応えられるよう尽力し、九州の森林・林業のさらなる発展に貢献してまいりたいと考えておりますので、皆さんよろしくお願います。

計画課長



河邊 喬

かわべ たかし

年齢 39歳
出身地 広島県
前職 中部局企画調整課長
抱負 初めての九州局勤務となります。公益的機能の持続的な発揮のため、多様で健全な森林づくりを推進するとともに、世界自然遺産やその候補地をはじめ、優れた自然環境を有する保護林について、適切な保護・管理に努めてまいりたいと考えています。これらの取組に当たっては、各署等はもちろん、関係機関や地元自治体等の皆様とよく連携してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

保全課長

年齢 57歳
出身地 熊本県
前職 計画保全部企画官
抱負 国有林は国民共通の財産であるという意識を持ちながら



峰内 浩昭

みねうち ひろあき

ら、その財産の適切な保全管理、地域及び地域住民からの多様な利活用の要請に対応しつつ、深刻な問題となっているシカ等の有害鳥獣被害や病虫害の防除・防止対策に向けて、局・署等の連携を密に情報交換・共有を大事に前進するよう取り組む所存です。これに欠かせない土台となるのが、職員相互の健康と安全が第一と思ひ、災害のない明るい職場づくりに努めて参りますので職員の皆さん宜しくお願いたします。

資源活用課長



木林 静夫

きばやし しずお

年齢 58歳
出身地 熊本県
前職 森林整備部企画官
抱負 年々増加する生産量・

福岡森林管理署長



角 秀敏

すみ ひでとし

年齢 58歳
出身地 福岡県
前職 中部森林管理局中信森林管理署長

抱負 出身は九州ですが初めての勤務です。全国の森林・林業をリードし、また歴史と伝統のある九州局で勤務させて頂くことを大変うれしく思っています。元号が平成から令和へと移り森林経営管理制度が導入されるなど大きな時代の変わり目にあります。国有林が「国が良かっただ」と地域の皆様により評価されるよう職員の皆さんと取り組むたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

佐賀森林管理署長



津田 京子
つだ けいこ

年齢 56歳

出身地 島根県

前職 近畿中国森林管理局広島北部森林管理署長

抱負 健康、安全に留意し、職員の皆様とともに明るく元気の職場づくりを目指してまいります。また、国有林の森林整備や生産、民国連携等に加え、虹の松原の保全など関係者との連携を密にし真摯な姿勢で対応するとともに、新たな森林経営管理制度が始まる中で地域に貢献できる森林管理署を目指して、職員一丸となって取り組んで参りますので、よろしくお願ひします。

長崎森林管理署長

年齢 58歳

出身地 高知県

前職 近畿中国森林管理局

抱負 平成元年の鹿児島署大

抱負 平成元年の鹿児島署大



村田 孝彦
むらた たかひこ

島営林事務所以来、二度目の九州局勤務です。長崎署は、五島列島・対馬などの離島や国立公園等に指定された豊かな自然が多く有り、現場に行くことを楽しみにしています。一方で、雲仙普賢岳・眉山のように地域の安全安心が求められる厳しい現場もあることから、事業の実施にあたっては、地元関係機関と連携しながら、着実に進めて参りたいと考えているので、よろしくお願ひします。

西都児湯森林管理署長



鶴山 道弘
つるやま みちひろ

年齢 57歳

出身地 熊本県

前職 四国森林管理局森林整備課長

抱負 平成元年の鹿児島署大

抱負 30年ぶりの九州局で宮崎県での勤務は初めてとなります。健康で災害のない明るく風通しのよい職場づくりに努めるとともに、林業の成長産業化に向けたトータルコストの低減をはじめ、林業事業体の生産性向上、木材安定供給への対応など課題はたくさんありますが、特に管内で実施しているケーススタディ地区の取り組みを二層推進することで、地域の森林・林業の課題解決に向け頑張りたいと思います。また、各種の取り組みに当たっては国有林からは災害を出さないとの基本姿勢で、事業体と一体となり各種安全対策に取り組んで参りたいと思ひます。

宮崎森林管理署

都城支署長



有蘭 敏行
ありぞの としゆき

年齢 56歳

出身地 鹿児島県

前職 森林整備部企画官

抱負 管内は、古くから林業・木材産業を中心に栄えた当地

域への木材の安定供給や、霧島連山の新燃岳・硫黄山の火山対策、観光資源の活用など国有林に対し地域からの様々な要望があります。民有林との連携を深めつつ国有林が地域に貢献できるよう、安全で明るい職場作りを取り組んで参りますのでよろしくお願ひします

宮崎南部森林管理署長



井上 隆裕
いのうえ たかひろ

年齢 58歳

出身地 長野県

前職 中部森林管理局流域管理指導官

抱負 局署(所)、林木育種センター(国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター)、林野庁及び農林水産省の検査官等、北は茨城県から南は鹿児島県での勤務を経て、20年ぶりの九州局勤務になります。当署におきましては、諸先輩の取り組みにより通称「鉄肥杉のミステリーサークル」(林分密度試験

北薩森林管理署長



古市 真二郎
ふるいち しんじろう

年齢 57歳

出身地 鹿児島県

前職 屋久島森林生態系保全センター所長

抱負 前任地での世界自然遺産地域の保全・利用から国有林野の管理経営と業務内容は大きく変わり不安もありますが、新規採用されたのが川内営林署、30数年ぶりに北薩署に帰ってきました。これも何かのご縁、初

心にかえり、森林・林業をとおして北薩地域の活性化に少しでも貢献できるように、職員の皆様とともに取り組んで参りますので、よろしく願います。

屋久島森林管理署長



西 純一郎

にし じゅんいちろう

年齢 57歳

出身地 熊本県

前職 北海道森林管理局上川

抱負 北部森林管理署長

抱負 初めての西日本、とりわけ九州勤務となります。まずは管内の状況確認を早期に行い、地方公共団体や地域の関係団体、住民の皆様と膝をつき合わせつつ意見等を伺いながら、できることとそうでないこと、特にできないことに関してはその理由、打開策等を示しつつ、行政運営として参る考えです。外国人を含む観光客の皆様にも、世界自然遺産・屋久島を楽しんでお帰りの一助をさせていただきます。ご協力をお願い申し上げます。

(担当：総務課)

安全運転管理モデル事業所に指定

【鹿児島森林管理署】当署は鹿児島県安全運転協議会より2019年度の安全運転管理モデル事業所への指定を受けました。これは、当署職員が日頃から安全運転に努めていたことが認められたもので、鹿児島県中央地区安全運転管理協議会より推薦を受け指定されたものです。

3月27日、鹿児島中央警察署持永洋文交通課長が来署され、山口輝文鹿児島森林管理署長へ「指定書」の交付と「標板」の交付がありました。

鹿児島森林管理署では、平成31年度も引き続き「交通事故等の絶滅」を重点目標に掲げ、職員一丸となって「安全運転の励行」と「飲酒運転の撲滅」に取り組んでいくことにしています。



指定書を受取る山口輝文署長

林分密度試験林等を視察

【宮崎南部森林管理署】3月26日、兵庫県神崎郡神河町の大山財産区議員など10人が当署の「林分密度試験林」及び「三ツ岩オヒスギ遺伝資源希少個体群保護林」について学ぶため視察に來られました。



説明を受ける参加者

始めに、今話題になっている「林分密度試験林」で、設定の目的や現在の状況、過去のデータの分析等について、次に、「三ツ岩オヒスギ遺伝資源希少個体群保護林」で設定の経緯、モニタリング方法等について当署の郷原寛美森林技術指導官から説明を受けました。

参加者は、林齢が140年を超えるスギがまとまって生育し

ているのを始めて見て感動されていた。また、ここで学んだことを地元を持ち帰って自分たちが管理している財産区の山林で活かしていきたいとのことでした。

当署では、今後とも外部からの視察を積極的に受け入れ、民間連携がより一層進んでいくよう努めていく考えです。

延岡アースデイ 母なる地球に恩返しをしよう

【宮崎北部森林管理署】平成31年3月17日、第26回延岡アースデイが開催されました。延岡アースデイとは、「母なる地球に恩返しをしよう」をテーマに延岡市各地で清掃等を行うイベントです。

当署においては、延岡市に所在する潮害防備保安林の清掃活動を、地元住民・高校生をはじめアースデイ会員等、約180



こんなゴミもありました

名参加のもと行いました。参加者は春の陽気に汗ばみながらも、懸命に清掃活動に取り組んでおり潮害防備保安林における防災機能の維持向上はもとより、テーマである地球への恩返しについても、その一端を担うことが出来たのではないでしょう。



清掃活動に参加された皆さん

長野林業大学校の 研修受入れ

【屋久島森林管理署】4月16日、入学して間もない長野県林業大学校1学年の校外研修の一環として学生20名と職員2名が、屋久島の森林・林業を学ぶため昨年度に引き続き屋久島森林管

理署を訪れました。

当日は天気も良く、当署安房野木土場において西純一郎署長からの挨拶の後、一口竜也森林技術指導官から屋久島の森林・林業の概要について説明を行い、続いて三國稔典地域技術官からヤクスギの歴史と現状について説明しました。

学生たちは、土場に保管されている樹齢千年を超えるようなヤクスギ土埋木の存在感ある大きさや目が詰まった美しい年輪を見て驚いた様子でした。また、土埋木の材積の算出方法や販売

価格、屋久島地杉の島外出荷の行き先についてなど、さすがは林業を志している学生らしい質問が出され関心の高さを感じさせられました。

ここ数年、長野県林業大学からの研修受入れを実施していますが、林相や森林の取扱いの違う屋久島の森林・林業を学んで頂くことは重要なことであり、これからの日本の森林・林業を担う人材になってもらいたいと大いに期待しています。当署では、本年度も外部からの研修等の受け入れを積極的に行い、人

で亡くなりました。3番目の兄が高校卒業後は父を手伝っておりましたが、父が急逝した時にはまだ27歳と言う若さでした。兄は、当初の困難を乗り越え、中津市では有数の製材所に育て上げることができました。



私の家は満州からの引き揚げで、全くの無一物の境遇の中から、父が苦勞して製材所を立ち上げ、60歳という若さ



新貝 正勝さん

昔は、山

林所有者は大変お金持ちでした。農地解放から免れていましたので、代々の山持が地方のお金持ちとして残ったのです。スギ、ヒノキの値段も高く、現在の3倍の値段がしていました。当時は全体の物価が今に比べると相当安

い時でしたから、3倍の値段と言うのは大変価値のあるものでした。ところが今はどうでしょう？ 木材価格が安すぎて、植林からの費用と年月を考えると、むしろ赤字となり、誰も相続したいと思わず、山林の放棄

実家は製材所

という現象に繋がっています。他方で、中国、韓国への輸出が盛んになりつつあり、中でも中国はこれまでの旺盛な建設需要に支えられ、日本からの輸入に力を入れ始めていくように思えます。

「林野」の記事を見ますと、生産コストの削減方策が取り上げられております。これはこれで重要ですが、限界があると思います。アメリカのサンキストレモンは農業団体の強力な指導と統制のもと、品質の確保を図り、輸出に当たっては農業団体に価格決定権があると聞いております。

林野庁は、国有林管理と言う昔からの大きな任務がありますが、木材価格の適正な維持を図り、国有林のみならず、民有林の維持、発展について、権限を持ち指導すべきだと思います。

【大分県中津市在住】



長野県林業大学校研修生の皆さん

材育成の一助となるよう努めていく考えです。

苗木の芽かき指導

【宮崎南部森林管理署】4月3日、日南市の森林所有者から昨年植林されたセンダンの芽かき指導の依頼を受けたことから当署から職員を派遣しました。この森林所有者は、当署が「センダン」を普及させるために見本林を設定した」という地元紙に掲載された記事を見て当署に依頼されたとのことでした。



現地指導の様子

現地は、昨年芽かきを行っていなかったことから、2又に分かれているなど通直に伸びていない状況でした。当署の職員が

どこに有るでしょうか？ 国内の木材市場のセリの現状からは価格決定権は買い手に有って、生産者たる山林所有者の意向が考慮される余地がありません。このようなことは、今後山林経営に魅力がなく、山林そのものが衰退していくことは必定でありましょう。



職員の手作りによる看板

【北薩森林管理署】平成最後の春、当署宮之城森林事務所職員により作成した看板を設置

森林事務所に看板設置

ら、1本に仕立て直すこと、側芽を摘み取る剪定方法及び剪定後に癒合剤を塗布することを実践を交えながら指導を行いました。

今回の依頼の他にも①苗木の調達先、②植林適地、③施肥方法等について問合せをいただいております、今回と同様に職員を派遣することとしています。

このような取組を通じてセンダンの育成方法を民有林へ普及し、民国連携がより一層進んでいくよう努めていく考えです。

しました。

当森林事務所は、平成18年7月鹿児島県北部豪雨災害により事務所が2m近く水没するほどの被害に遭い、その後復旧を行い被災前と変わらない状態に現在に至っています。

ただ、当事務所入り口には看板がないということで、1年ほど前から新たな看板を設置しようという計画し、材料には平成23年8月に根元から倒れてしまった元巨樹・巨木に指定されていた樹齢1000年を越える「三州谷大ケヤキ」の端材を活用し、少しずつ時間をかけて作成してきました。

作成過程では、署に訪れる関係団体、さつま町役場の職員などから興味を持たれ、材料を分けて欲しいなど問い合わせもあり、今後の宮之城森林事務所及び国有林の地域へのPRに大いに貢献できるだろうと期待しています。

林分密度試験林の紹介看板を設置

【宮崎南部森林管理署】当署の林分密度試験林は、昨年11月からテレビ6社、新聞9社が報道及び外国メディア2カ国から取材を受けたところです。現地



現地案内看板を設置

取材を対応している際に、マスコミ関係者からドローンでの撮影ではなく目視で確認できる場所がないかとのお問合せをいただいたところであり、その都度案内させていただいたところです。



「ミステリーサークル？」説明看板

このことを踏まえ、どなたでも気軽に林分密度試験林を見て頂くために遠望できる2箇所に紹介看板を設置しました。

設置箇所は、レクリエーションの森の「猪八重の滝風景林」の遊歩道終点付近及び日南市道本太郎線です。

今後この貴重な「林分密度試験林」を多くの方にとって頂けるように取り組んでいくことにしています。

シカ捕獲研修会

【屋久島森林管理署】当署では保全センターと連携しながらヤクシカを職員実行で捕獲しているところであり、平成30年度は31頭を捕獲するとともに、委託事業や協定捕獲等を合計すると197頭を捕獲しています。

このような中、4月19日に当署会議室において、4月異動の転入者及び免許更新の必要な職員3名に対して岩本清文次長を講師として、有害鳥獣捕獲従事者研修を開催しました。午前中の座学研修に続いて午後からは鍋山国有林108林班において、職員が参加して実技研修会を開催しました。



くくり罠の設置研修

実技研修会では、吉村浩一主任森林整備官と山口聖技官が講師となって屋久島におけるヤクシカ被害対策の取組状況、本年度の捕獲計画等の説明や、くくり罠の実技指導を行いました。くくり罠の実技では初めて設置する者を中心に、設置のコツや安全な取扱方法、電気止め刺し器の使用方法などの指導を受けました。

当署及び保全センターでは、ヤクシカによる屋久島の貴重な森林生態系や農林業への被害を抑えるために、屋久島町、地元猟友会などの関係機関と連携しながら、本年度も職員実行と併せて委託事業や協定に基づくヤクシカ捕獲に取り組む考えです。

日本の貴重なコケの森

【宮崎南部森林管理署】 国有

林の「レクリエーションの森」である猪八重の滝風景林は、昨年の8月に宮崎県で初めての日本蕨苔類学会の「日本の貴重なコケの森」に認定され、このことをPRするために、コケの森の看板等を整備しました。

この整備に当たっては、猪八重の滝風景林管理運営協議会（会長田中利郎氏）と、一般財



日本森林林業振興会熊本支部長より贈呈

所の紹介のほか、カクレゴケやサカリゴケなど貴重なコケの写真が紹介してあります。また、看板と石碑をゆっくりと見学するために、前面に南那珂森林組合から寄贈していただいたオビスギのベンチを設置しました。今後とも、協議会の皆さんや企業の協

団法人日本森林林業振興会熊本支部（支部長津々見正樹氏）が森林整備に関する支援協定を締結し、一般財団法人日本森林林業振興会熊本支部からの助成金によって実施されたものです。

今回、整備していただいた看板は、猪八重渓谷入口の駐車場にある、世界で唯一のコケの専門研究所である公益財団法人服部植物研究所を開設された服部新佐博士の功績を称える石碑の横に設置し、九州を代表するコケの宝庫の解説や服部植物研究

力を得ながら、猪八重の滝風景林を充実させて見学者の方々に親しんでもらえる「レクリエーションの森」になるよう努力していきます。

新入社員記念植樹を実施

【長崎森林管理署】 4月26日、（株）谷川建設の平成31年度の新入社員と関係社員23名が大村湾を望む遠目国有林内において、ヒノキ、カエデ、ヤマザクラの苗木約200本の記念植樹を行



作業開始前の安全指導の様子

いました。谷川建設は、「やすらぎと癒やしの住まい」キャッチフレーズに良き日本の伝統文化を継承した木造住宅を提供し、国産材を積極的に活用しています。また、家づくりに使用する木材を育てる森林再生にも取り組んでおり、特に森づくりの最初である植林の作業経験が重要というところで、毎年、長崎森林管理署管内において新入社員による記念植樹を行っています。当日は、あいにくの霧雨の中



新入社員による記念植樹の様子

での植樹となりましたが、村田孝彦長崎森林管理署長の挨拶の後、鹿田純吉森林技術指導官の安全指導、渡邊昭伍総括森林整備官の植付実演指導を受け、始めて使用する鋤に悪戦苦闘しながら植樹に取り組んでいました。新入社員達はそれぞれ将来の目標などを記入したプレートを立てて、共に大きく成長することを願って記念植樹を終了しました。

菊池渓谷山開き

【熊本森林管理署】 菊池渓谷

は、平成28年4月に発生した熊本大地震の甚大な被害により閉鎖を余儀なくされていましたが、昨年3月に約2年ぶりの開谷を迎えたところです。菊池渓谷の根強い人気により、入谷者数は震災前の数に戻りつつあり、今後も一層の盛り上がりが見込まれます。

このような中、4月11日に平成31年度の菊池渓谷の山開きが、菊池渓谷を美しくする保護管理協議会の主催により、関係機関から約70名の参加の



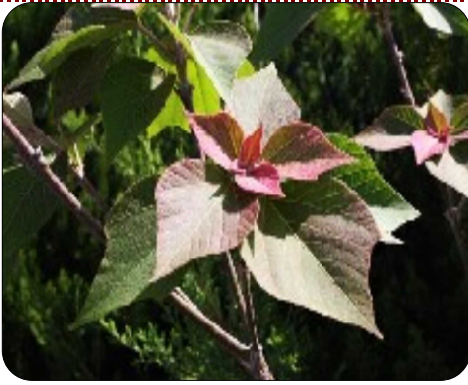
ころう君も参加してのテープカット

もと盛大に開催されました。

まず神職による神事及び関係機関による玉串奉奠が行われ、菊池渓谷の安全が祈願された後、主催者を代表し協議会会長の江頭実菊池市長が「菊池渓谷は菊池市を支える命の源であり、更なる創造的復興のために関係機関と一層の協力をしていきたい」と挨拶、次に、来賓挨拶として川畑充郎熊本森林管理署長が

都会の中の憩いの森 多様な植物

山野に普通にある落葉高木で典型的なパイオニアツリーで、他の樹木が大きくなり陰になるとすぐに枯れます。枯れた木にはキクラゲが必ずと言っていい



川畑署長の挨拶

「菊池渓谷内が安全にご利用頂けるように引き続き関係機関と連携しながら、各種取組に対してご協力していきたい。」と挨拶しました。
続いて行われたテープカットでは、関係機関の代表者に加え、菊池市の鞠智城イメーシキョウクターである、「ころう君」も参加し開谷を盛り上げていました。

138 アカメガシワ(トウダイクサ科)

ほろ発生します。

葉は互生し長い柄がある雌雄異株の樹木です。葉の上面基部に2腺点があります。下面には小腺点を密布して、全縁ですが浅く3裂することもあります。



イイギリとよく似ていますが、イイギリには柄に2つの蜜腺がありアカメガシワには柄に蜜腺がなく、葉面(表)基部に蜜腺のあ

幼い葉の時は上面の蜜腺から蜜を出して蟻を集め、他の虫から葉を食べられるのを防いでいます。葉が生長して硬くなると、防虫のための蟻の必要がなくなるので蜜は出さなくなります。この仕組みで蟻と共生しているようです。

をのせたので赤芽かしわと呼ばれる、五葉葉(ごさいば)、菜盛葉(さいもりば)の名前もあります。お盆団子に葉を使っている地方もあります。アカメは芽が紅赤色であることによります。

森林インストラクター

安案 行雄



今年のゴールデンウィークは、天皇即位に関する休日法が平成30年12月14日に公布され、最大で10連休となった▼この大型連休を利用して旅行や各種イベントへの参加など過ごされたと思います▼季節も新緑の時期となり、春先に新緑が山の麓から頂へ駆け上がったいく峰走りが見られるなど、山登りやハイキングに適した時期でもある▼全国では高齢化が一層進み、平均寿命も長くなっている現状の中、人々の健康に対する意識も大きく変わってきている▼近年、朝夕を問わずウォーキングしている人達を見ることが多くなった▼ウォーキングの効果は、「脂肪燃焼」、「筋肉強化」、「血流改善」、「病気の予防」などが上げられ、運動の中でも負荷が軽いスポーツなので多くの人達が行っている▼しかし、無理して身体に過度の負荷をかけ過ぎると本末転倒となるリスクもある▼長く続けるためには自分に合った運動量の設定、時には市街地から森林の中を歩くことで森林浴の効果もプラスされ、より効果的なウォーキングとなる▼まだまだ長い人生、健康を維持するために、私を含め先ず一歩を踏み出しましょう。(西)